



子育てチャンネル

みんながって、みんないい

この言葉は、金子みすゞ童謡集に出てくる「わたしと小鳥とすずと」の言葉です。

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように
地面（じべた）をはやくは走
れない。

わたしがからだをゆすっても
きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴はわたしのよう
にたくさんな歌はしらないよ。
鈴と小鳥とそれからわたし、
みんながって、みんないい。

金子みすゞは1903（明治36）年4月生まれです。1930（昭和5）年3月、26歳の若さで亡くなりました。512編の童謡を残して。およそ100年前の人です

が、今日多くの人がみすゞのファンになっています。

みすゞの楽しく優しくそして悲しい、豊かな感性にあふれた童謡に出合うとき、心が揺さぶられます。

さて、現代社会をみると、自分（達）と異なるものを排斥し、攻撃しています。

戦争、テロ、いじめの背景に、このような考えがあるように思えます。

しかし、みすゞは「みんな違って、みんないい」です。こころの豊かさとは何かを考えさせられます。

次に紹介するのは、辻井いづ子著「今日の風、なに色」です。

わが子・伸行君の目に障害があると知った時、母いづ子は言葉では言い表せない心の傷を負いました。赤ん坊の伸

行君と二人で毎日泣き明かし、絶望と不安の日々が続きました。そんな中、同じく視覚障害を持つ作家・福沢美和さんとの出会いをきっかけに、いづ子さんは少しずつ本来の明るさを取り戻しはじめます。「障害者らしく」ではなく「この子らしく」生きて欲しい、と。徐々に生きる勇気を奮い立たせ、伸行君の才能や個性を生かした子育てを模索していく過程がつつらわれています。

現在、伸行君はピアノリストとして歩み始めました。

さて『仏説阿彌陀經（あみだきよ）』に、極楽浄土には、大きな蓮の花が咲いており、赤い花びらからは赤い光が出ていて、青い花からは青い光が、白い花からは白い光

が、黄色の花からは黄色の光が放たれている、とあります。この経典は、まるで童謡のような感性（こころ）豊かな世界が描かれています。

私たちは、大人になるに当たって、そうした豊かな感性（こころ）をそぎ落として来たのではないだろうか。

あらゆるもの、あらゆる生き物は、それぞれの働き、それぞれの役割、それぞれに特徴（個性）、才能があり、みんながって、みんないいのです。

永江 竜 心

永楽寺住職

文中で紹介した辻井いづ子著「今日の風、なに色？」（アスコム刊、221頁）は文化交流館に蔵書があります。

文化交流館に蔵書があります。